

4月
13(月)...

出会いの祝福を味わいましょう

みことば パルナバはサウロを捜しにタルソへ行き、彼に会って、アンテオケに
使徒 11:25~26 連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの
人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と
呼ばれるようになった。(6~7)

パルナバは、タルソの町で静かに訓練を受けていたサウロをさがしに行きました。パルナバは、迫害者だったサウロが、伝道者のパウロに変わった姿を見て、神様に感謝をささげました。パルナバは、パウロをアンテオケ教会に連れて行って、ともいアンテオケ教会の信徒を教えました。パルナバとパウロとは、まわりの人々が、アンテオケ教会の信徒たちを指してキリスト者と呼ぶほど、信仰をかたくしたのです。

1. 出会いは重要です

一生の間には、多くの人に会って別れます。その多くの出会いの中で、パルナバとサウロ(パウロ)のように、おたがいに益をあたえる福音的な出会いを持たなければなりません。しかし、反対に誤った出会いは、深い傷と後悔だけを残すだけです。人は、どんな人に会うかによって、幸いな人になることもあり、悪人になったりします。

2. どんな出会いを持たなければならないのでしょうか

まず、本を通して出会いができます。本は、直接に会えない人を間接的に会って、その人の経験を学ぶようにする働きがあります。二つ目に、良い友人と先生との出会いがあります。しかし、福音が通じる同労者との出会いが真に重要です。パルナバがパウロに会って素晴らしいことをやりとげたように、レムナントも福音が通じる同労者との出会いを通して、神様がもっとも喜ばれることをすることができます。

3. 神様との出会いが一番重要です

一番重要な出会いは、万王の王である創造主の神様との出会いです。神様の恵みを受ければ、すべての出会いが幸いに変わります。レムナントのみなさん、<子どもの祈りの手帳>を通して、神様とのまことの出会いを毎日味わってみましょう。

神様に お願いいたします

毎日、神様と出会う楽しさを味わうことができますように。毎日、良い本を読むことができるように助けてください。福音が通じる人たちと出会う、ともにチームを作り、神様を喜ばせることをできるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

子どものための 私の心のキリストの家



神様は、本当に人格をもったお方です。私の心の門をこわして入って来られるのではなく、トントントンと、ノックして入って来られます(黙示3:20)。私の心の主人であるキリスト・イエスは、私と交わることを願っておられます。私とお話をするを願っておられ、私が痛いところをいやしてあげようと思っておられます。ときどき、お父さんやお母さんが、教会に通っていて、祈りなさいと言われるので、むりに祈るお友だちがいます。イエス様は、ぜったいにそんな方ではありません。この世を造られる前から私を見守っておられ、よるこびをかくしておくことができないお方です。<子どものための私の心のキリストの家>を読んで、私と友だちになることを願っておられるイエス様に会いました。イエス様のあたたかい愛を感じました。イエス様の愛を受けましょう。そして、その愛を未信者の友だちに伝えましょう。



文 : Robert Boyd Munger
Carolyn Nystrom
「原書は My Heart - Christ's
Home Retold for Children」
日本語版は不明です(訳注)

私の歴史記録

ていこくの てんげん ひる
定刻祈りの点検 : 昼12時 - 教会のために祈りましょう
よる
夜9時 - BUTCのために祈りましょう



4月
14(火)

重職者のために祈る レムナント

みことば この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人使徒 6:1-7 ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、手を彼らの上に置いた。(6-7)

1班の班長が言いました。「私が班長なので、私の言うことをよく聞いて、言うことを聞かないなら、先生に言うよ」2班の班長は言いました。「班長として選んでくれてありがとう。最善をつくして、班のために働きます」どちらが、まことの班長でしょうか。班長は、班の子どもたちに仕えるために立てられたのです。教会の重職者も、教会に仕えて、信徒を助けるように、神様が立てられたのです。

1. 重職者がまず、力を受けなければなりません

赤ん坊が生まれれば、家族みんなが赤ん坊の世話をします。お腹がすいたら、ミルクをあげて、おもらしをすれば、すばやくおむつを取りかえて、むずがればあやしてなだめてあげます。しかし、大きくなったおとながそうだったら、どうなのか考えてみましょう。長老、勸士、按手執事は、教会のおとなで、教会の重職者です。子どもと同じ信仰では、教会と信徒に仕えることはできません。それで、重職者はだれよりも、神様がくださる力を先に受けなければなりません。

2. どのようにすれば重職者が力を受けることができるのでしょうか

教会によく仕えようとするなら、神様の力が必要です。それで、重職者は24時間、神様が与えられる力を受けなければなりません。24時間、祈りながら、神様のみことばを握る重職者であってこそ、教会と地域を生かす主人公になることができます。

3. 重職者のために祈りましょう

重職者の大人たちが牧師とみことば、祈り、伝道が愉快、そう快、痛快に通じるように、レムナントは祈らなければなりません。また、重職者が信仰と聖霊と知恵に満たされて、人々の評判が良いように祈らなければなりません。レムナントは、重職者のために祈る使命があるのです。

神様にお願いします

神様、重職者の大人たちが24時祈って、24時使命をはたし、24時祝福を味わえるようにしてください。初代教会の重職者のように信仰と愛と知恵に満たされて、評判が良い人になりますように。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

使命をにぎった重職者たち

モーセが「エジプトを脱出するためには、羊の血をかもいと門柱にぬらなければなりません」と言って、長老たちが、このことばを国民に伝えました。モーセがカナンに入るのに先立って、十二人の偵察を選んで、カナンを偵察して調べるためにその人々が行きました。ヨシュアが「祭司が契約の箱を担ってヨルダン川を渡る時、イスラエルの民に、その後を従うように、陣の中を歩いて話さない!」と言ったら、つかさたちが、陣を回って話しました。

長老、十二人の偵察した人、つかさは、すべて今の教会の重職者を示す言葉です。重職者が使命を正しくにぎれば奇跡が起こります。どんな奇跡が起こったのか、線をたどって見てみましょう。



モーセと12長老



モーセと12偵察



ヨシュアとつかさ

私の歴史記録

定刻祈りの点検：昼12時 - 教会のために祈りましょう 夜9時 - RUTCのために祈りましょう



4月

すべての障害物を越えて

15(水)

みことば 通れ、通れ、城門を。この民の道を整え、盛り上げ、土を盛り上げ、大路をイザヤ 62:6-12 造れ。石を取り除いて国々の民の上に旗を揚げよ。見よ。主は、地の果てまで聞こえるように仰せられた。「シオンの娘に言え。『見よ。あなたの救いが来る。見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の前にある。』と。(10~11)

二人の農夫が畑をたがやしていました。しばらくたがやしていたら、大きな石が出てきました。農夫は「この石のせいで、畑をもっとたがやすことができない。エッ！今年には、たがやすなってことなのか」と言いました。そのとき、ちょうど道を通りかかった一人のおじさんが、農夫に言いました。「おい、若いの。石が出てきたら取りのぞけばよいのに、それで一年農作業をしないっていうのかい？ そんなバカなやつがいるのか」農夫は、はずかしくそんな顔をして、頭をかきました。

1. 世の中には障害物がたくさんあります

農夫がたがやしていた畑のように、世の中にも多くの石ころ(障害物)があります。特に、サタンは、運命とのろいと災いという石ころをつかって、いつもこまらせます。レムナントには不信仰という石ころをおいて神様を誤解させるようにします。しかし、イエス様がサタンの権威をみな打ちくだされました。レムナントがいつもインマヌエルを味わえば、サタンのどんな攻撃でも勝利します。

2. 神様のみことばをかたくにぎりましょう

イエス様は、すべての問題を解決されたキリストです。この事実を信じて認めた私たちは、神様の子どもです。救われた民が、神様のみことばをしっかりとにぎって進めば、サタンのどんな攻撃にも勝利できます。

3. いつも祈る見張り人の祝福を味わいましょう

これ以上、障害物にひっかかって座りこまないでください。ムナントがみことばをにぎって祈りさえすれば、いつでも、どこでも勝利することができます。そして、友だちにこの事実を伝える伝道の祝福を味わいます。

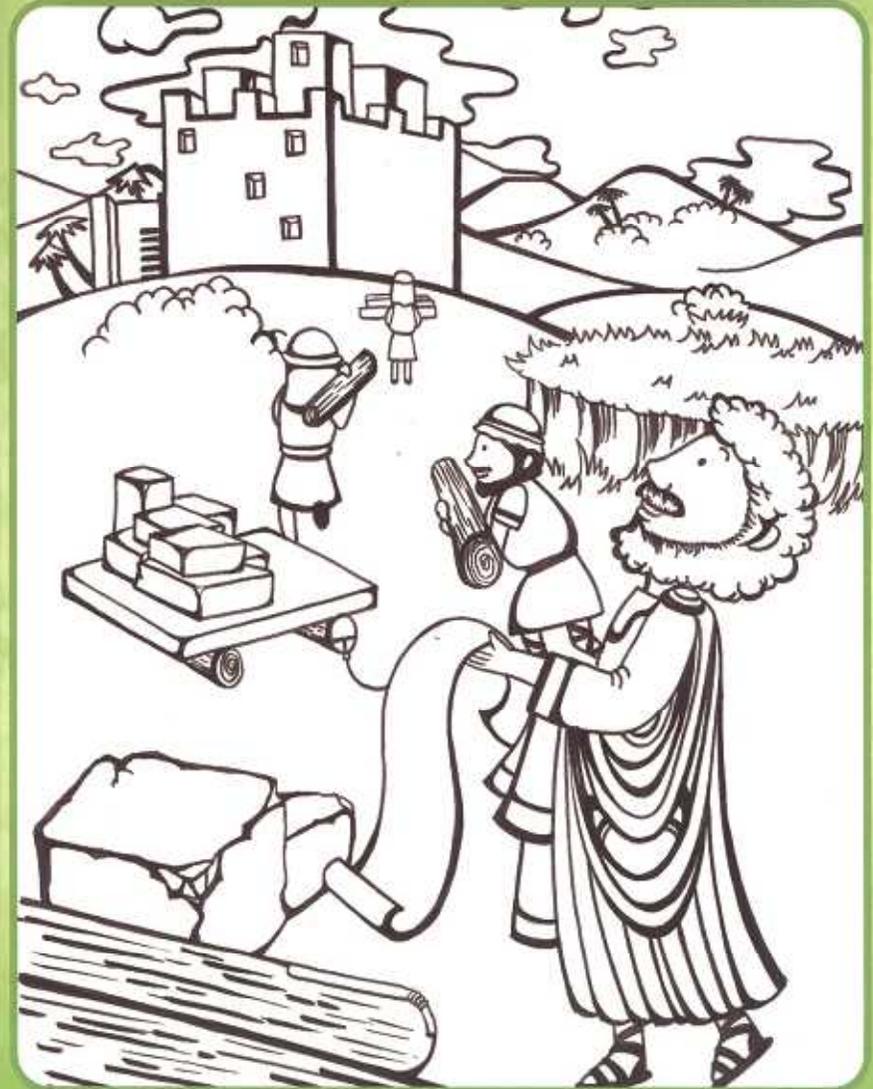
神様にお願いいたします

私たちの前に置かれている障害物を、イエス・キリストのお名前によって取りのぞいてください。多くの人たちに福音を伝えることができるように、私がまず、恵みを受けますように。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

定刻祈りの点検：昼12時 - 教会のために祈りましょう 夜9時 - RUTCのために祈りましょう

障害物をなくそう！

神様は、福音にじゃまになる障害物を、福音の中で一つずつなくしていきなさいと言われます。福音を聞いて行く神様の子どものために、霊的な道を整えて、大きな道を作りなさいと言われます。ゼルバベルは、神様のみことばのとおり障害物をなくして、神殿を建築しました。その姿をぬり絵できれいに色をつけてください。



4月

16(木)

時代を先取りする福音運動

みことば 使徒 8:1~8
群衆はピリポの話を聞き、その行なっていたしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。汚れた霊につかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫んで出て行くと、大ぜいの中風の者や足のきかない者は直ったからである。それでその町に大きな喜びが起こった。(6~8)

ユダヤ人はサマリヤの人々をかんぜん無視して見ました。サマリヤの人々が異邦人と結婚して、混血の人しか残っていなかったためです。しかし、ピリポはそのようなせまい考えをこ越えて、サマリヤの町に福音を伝えに行きました。

1. サタンは、よくない考えの種をまきます

どのように考えるかにしたがって、言うことと行動がちがいます。それで、サタンは人々の考えの中に理念、思想、文化、政治、宗教という名の毒麦をまきます。「福音より思想と政治が、もっと合理的(だれからも認められる)だよ。福音文化よりこの世の文化が、もっと、はなやかだよ。みずばらしい教会より、りっぱなお寺や神社がもっとすてきだよ」など、人々によくない考えを植えて、どんどん滅びに押し進めます。

2. レムナントは、先取りして行かなければなりません

レムナントは、勉強もいっしょうけんめいにして、運動もかかさずしなければなりません。しかし、福音の目で世の中を正確に見なければなりません。大人よりもっと広く、大きな信仰の器を準備して、神様の答えを受けるレムナントになりましょう。

3. どうすれば、世の中を先取りすることができるのでしょうか

福音で世の中の考えを越えれば、世の中を先取りして行くことができます。夜遅くまでコンピュータゲームやテレビだけ見ている規律では、この世を越えることはできません。まず霊的な状態から正しく整えてみましょう。みことばをにぎって、祈りはじめてみましょう。神様がレムナントの祈りにかならず答えてくださいます。答えられるレムナントは、この世を楽に先取りすることができます。

神様においのりします

愛の神様、サタンがまいた良くない考えにだまされないように、私の思いと心を守ってください。毎日、みことばをにぎって、祈ることによって、霊的な力を受けることができますように。この世をリードしていく伝道者にならせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

一脈相通する

サタンは、人々に♥理念の争いをさせます。「私だけが神様の子もた。ほかの子はちがう」というよくない考えを持たせませす(選民思想)。「私の国だけが良くなればよい!私の国が最高!」という考えを持たせませす(民族思想)。しかし、福音を持っているレムナントは違います。理念を越え、思想を越え、民族を越え、福音で一つになりましょう。一脈相通するという言葉を読んで、思いと心が福音で通じるレムナントになりましょう。

♥理念: 理想的(とても良いこと)だと感じる考えや意見

一 いち
脈 みやく
相 あい(たがい)
通 つう
ず ずる



一	脈	相	通	ずる
いち	みやく	あい	つう	ずる
せいしつ (性質や考え方などが) どこかに似通っていること				

私の歴史記録

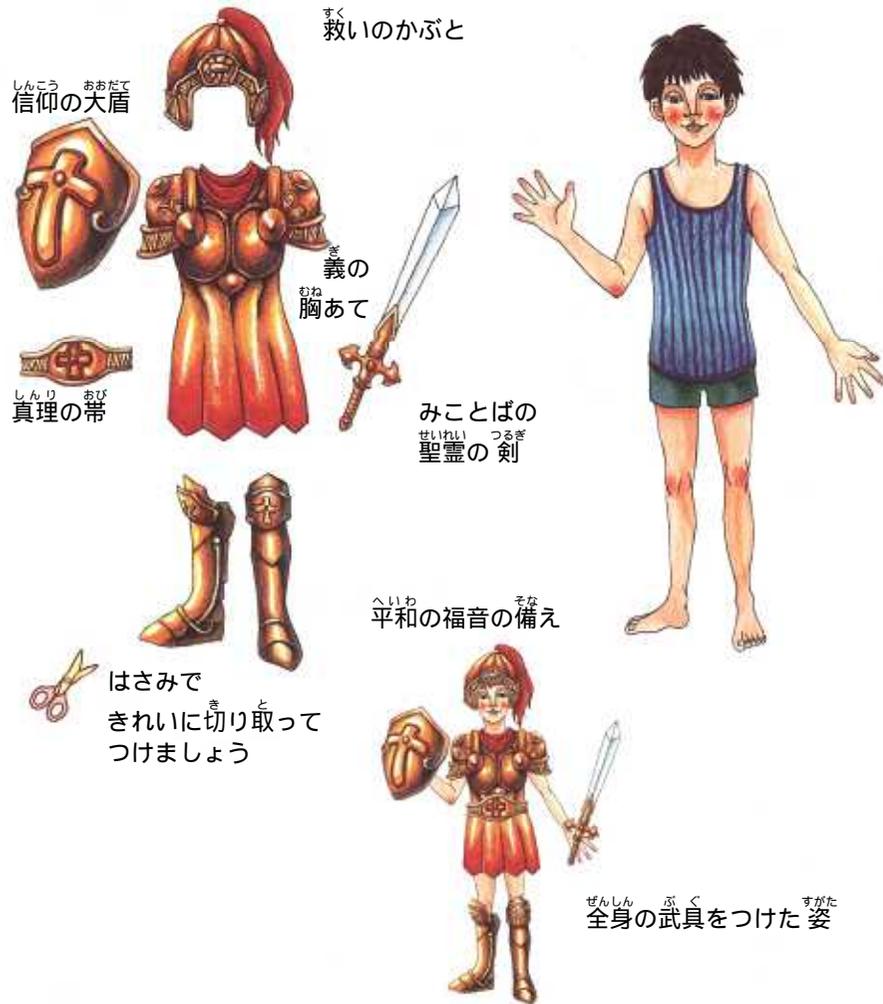
ていこくの てんけん ひる 定刻祈りの点検: 昼12時 - 教会のために祈りましょう
よる 夜9時 - RUTCのために祈りましょう



.....
.....
.....

霊的な戦争に備える姿勢を持とう！

サタンけんいの権威かんぜんは、イエス・キリストうによって完全に打ち砕かれました。しかし、サタンは、地獄じごくに閉じ込められる時まで、全世界ぜんせかいをまどわしています。暗やみの文化ぶんかを作って、人々ひとびとを誘惑ゆうわくします。神様しんを信じる信徒しんとうまでも攻撃こうげきします。しかし、全身ぜんしんの武具ぶぐを身につけて祈いのって神様しんがくださった権威けんいを使うレムナントしやうりは勝利しょうりします。絵の中のレムナントに、全身ぜんしんの武具ぶぐを着せてあげてね。



4月

私の家は

17(金)

神様の武具をつけている

みことば 終わりに言います。主たいてうにあって、その大能たいのうの力ちからによって強められなさい。悪魔あくまのエペソ 6:10-18 策略さくりやくに対して立ち向かうことができるために、神しんのすべての武具ぶぐを身につけなさい。私たちの格闘かくとうは血肉けつにくに対するものではなく、主権しゆけん、力ちから、この暗やみの世界しやあくの支配者しはいしやたち、また、天てんにいるもろもろの悪霊あくれいに対するものです。ですから、邪悪じあくな日に際さいして対抗たいかうできるように、また、いっさいを成し遂なげて、堅かたく立つことができるように、神しんのすべての武具ぶぐをとりなさい。(10~13)

三匹の子ブタさんびきがお母さんからはなれて、家いえを立てました。最初さいしょの子ブタはわらで、2番目にばんめの子ブタは木で、3番目さんばんめの子ブタはレンガで家いえを立てました。そうしたら、ある日あるひ、おおかみおおかみが現あられて、三匹さんびきの子ブタの家いえを「フ~！」と吹ふきました。最初さいしょの子ブタの家いえは、ビューと飛とんで行き、2番目にばんめの子ブタの家いえは、ガラガラとこわれしました。しかし、3番目さんばんめの子ブタの家いえは、どんなに吹ふいても、崩くずれませんでした。なぜなら、レンガでしっかりと立たてられていたからです。

1. 救いのかぶとをかぶって義の胸あてをつけましょう

レムナントは、福音きんぎ的な考えかんがを続つづけて完成かんせいしていくべきです。しかし、サタンは思いと心こころの中に、不信仰ふしんこうの種たねをまいて、救いすくの感激かんげきも忘れて、神様しんの恵みめぐみもつまらなく感じるようにさせます。それで、レムナントは救いすくのかぶとをしっかりとかぶって、感謝かんしゃの義ぎの胸あてむねをつけなければなりません。

2. 真理の帯をしめて、福音のそなえをはきます

「あのみことばは、私の友だちが聞きくべきで、あのみことばは、あのみことばが聞きかなければならない」というように、みことばを聞きいてはいけません。「私へのみことばだな！」と心こころにあたってこなければなりません。そのようなレムナントこそ、真理しんりの帯おびをしめて、福音きんぎのそなえをはく、現場げんば伝道でんどう弟子でしです。

3. 信仰の盾とみことばの剣を持って、いつも祈りましょう

サタンは、問題しんこうと事件たてという火矢ひやをうってきます。しかし、レムナントは信仰しんこうの大盾おおだてをしっかりとにぎって、サタンさたんの攻撃こうげきを防ふぎましょう。みことばの剣けんを持って、サタンさたんの勢力せきりよくを打ち破やぶりましょう。常時じやうじ祈りいのという無線機むせんきを持って、隊長たいちやうであるイエス様イエスさまとずっと連絡れんらくしながら、霊的れいてきたか戦たたかいで勝利しょうりしましょう。

神様にお願いします

神様しん、全身ぜんしんの武具ぶぐを身につけて、サタンさたんとの霊的れいてき戦たたかいに勝利しょうりさせてくださって感謝かんしゃします。イエス様イエスさまを知らない状態じやうたいで、続つづけて攻撃こうげきされる友だちともだちに、福音きんぎをつたえるレムナントレムナントになりますように。イエス・キリストイエス・キリストのお名前なによってお祈りいのします。アーメン

定刻ていこく祈りの点検てんけん：昼12時ひる - 教会きやうかいのために祈りいのしましょう 夜9時よる - RUTCレムナントのために祈りいのしましょう

現場げんばの小さな教会、ミッションホーム

「神様、今日も小学生の礼拝時間に伝道師先生のみことばを通して恵みをあたえてくださったことを感謝します」

メグミは、喜んで小学生の礼拝の部屋を出た。そして、教会の広場で、友だちとたのしく遊んで家に帰った。

昼食を食べてから、メグミはテレビをつけた。歌手が出てきてダンスして、おもしろい話をしていた。おかしいコメディアンも出てきて、流行語を言う時ごとに、メグミもまねをしてみた。どれくらい見たらだろうか。

空高くにあった太陽が、西の空に少しずつはじけ、赤い夕焼けになっていた。

メグミは、お母さんが作ってくれた夕食を食べて、また、テレビをつけた。夕方には、もっと

おもしろい番組がメグミを待っていた。

メグミがある番組をおもしろく見て

いたら、お母さんが早く寝なさいと言った。メグミは、プウと口を

とがらせて、部屋に入って寝た。

翌日、チエが、メグミに、午後から自分の家でする「子ども

ミッションホーム」に行こうと言った。

学校が終わって、チエの家に入ったら、

リビングには、もう教会の子どもたちが集まっていた。



「みなさん、昨日、小学生の礼拝時間でのみことばを、ちゃんと聞いていましたか」「はい!」

先生のことばに、子どもたちは、ひと声で答えた。

「それでは、先にユウトくんから、小学生の礼拝を聞いてにぎったみことばを話してみてください」

ユウトは、<子どもの祈りの手帳>を取り出して広げた。

「ぼくは、昨日、伝道師先生が伝えてくださったみことばの中で『私の祈り』を心の中に入れました。それで、毎日、お昼の時に1分ずつ私たちの学校と教会のために祈ることを決意しました。今日、学校で昼食を食べて1分間、祈りました。今晚9時には、テレビを切って、RUTCのために祈りをはじめようと思っています」

ユウトは、国語の本を読むように、きちんと答えた。ところで、ユウトの話の聞いているメグミの顔が、どんどんリンゴのように赤くなった。

「私は小学生の礼拝時間に、恵みだけ受けて、一日中テレビだけ見たが、ほかの子は家に帰ってみことばを整理していたんだな。ユウトのやつ、ふざけてばかりいると思っていただけ、1分ずつ祈るという目標を立てて、実践までしてではないか」メグミは、昨日の自分の姿を反省しながら、ユウトのように小さい目標を決めて、信仰で実践することにした。



天国のように幸せなミッションホーム

1. ミッションホームは、レムナントが家庭でのがす部分を探して訓練させる所です。
2. 友だちを招いてイエス様を伝え、訓練を受けるようにする弟子の現場です。
3. 現場で福音の光を照らす小さい家庭教会です。私の家もミッションホームになることができるように祈りましょう。